

幼 兒 の 教 育

昭 和 二 十 年 三 月

熱 意

—— 保姆諸君と語る —— (三)

倉 橋 惣 三

大勢の中から選出されて、その園の職員になつてゐる保姆諸君に、力倆の差はさうある筈もない。老練の人は老練に、若い人は若いなりに、それぐの特徵に於て立派な保育者である。たゞ熱意の差がその人を差別する。

なまけものさいふのではない。なまけものだつたら全然お話にならない。なまけものさころか、するだけのこまは一ぱいしてゐるのである。だがさうも足りない。こまが足りないの。之れで充分じやないの。こまおつしやるでもあらう程に、足りないのもなし、充分なのでもある。たゞ、しかし、それだけのこまで、それ以上でない。もう一まつきりさいふさころで、ちやんさ止つてゐる。見事に止つてゐる。

十のものを八で済ませて置くのを、なまけさいへば、八でありながら十らしく見せてゐるのを、さいふ。十のものを十だけして居るので申し分はないが、そこに、もう一つ進んでの意氣込みがないのを、熱意不足の人さいふ。申し分はないにしても、

それだけのこゝで、當り前以上何ものでもないのである。

熱意不足にいろ／＼の原因がある。(一)真面目ではあるが真面目だけの場合。(二)利巧なために自分の力の出し方に調整が過ぎ過ぎる場合。(三)周囲のつりあひに鋭敏ではござのよさが先きに立つ場合。(四)、(五)、(六)、……こ番號を追つてゆくまでもあるまいが、何しろ興味そのものに押し出されるこゝもなく、無我夢中になるこゝもない。無事さいへば無事、安全さいへば安全、多分、行き過ぎる間違ひはないだらうが、豫期以上の何ものをも生んで貰へない。頼まれた丈は立派に果すが、そこから一步も先きに出ない。頼まれた以上に出来てゐたり、況んや、頼まれないこゝまで出来てゐるこゝが、全然ない。

それを出しやばらない態度ださいふ人がある。それでもあらう。それを謙遜な態度ださいふ人がある。そうかしら。出しやばるのはよくないだらうが、事を済むだけで済ませて置くのが謙遜さいふものだらうか。之れでは済まない。もつこ盡さなければなるまい。勝れた人、練達の人なら一ぱい／＼の仕事のしかたでいゝのだらうが、自分のやうなものは、その以上々々々、餘分のこゝろまでして置かなくては済まない。その熱意だけで、せめても一人前の勤めが出来るのだこ思ふ方こそ、謙遜な態度さいふべきではあるまいか。これで澤山さ。さいつた態度ほご實は不謙遜のこゝはあるまい。

十すべきこゝろを十一する。十二する。そこに、一つ二つ三進展があるのである。若しそれがなかつたら、いつも進展しない。進展しないから退歩する。私達は、時折、こゝが悪いさいふのではなく、只十年一日の如く、進展しない幼稚園を見るこゝがある。熱意不足の幼稚園である。するだけのこゝは皆がして居り、すべきこゝは一つ、出来てゐるが、たゞ上品に、お静に、そつみなつてゐるだけで、活氣も立たなければ意氣も上らない。それは、その幼稚園さして面白くないこゝだらうし、保育界そのものへ何の存在價値も貢獻しない。

高齢で、疲れ切つて、一ぱいのこみをするのが精一ぱいこいふのなら、敢て咎めもしないし、寧ろおいたわりしたい位である。それが、若い身空で、何んのこみだこいひたい位、熱意不足の人があつたら何んこしやう。園のためさか、保育界のためさかこいふこみでなくても、先づ、御自分さんが、つまらないこみじやないかと思ふ。

幼稚園に限らない。社會が求めてゐる人は熱意の人である。従つて、世に自分の存在を確立してゆく途も、賢ささか上手さかこいふこみよりも、熱意一つである。熱意ある人はたのもし。うれし。有難い。世はその人を認めずこいふし、感謝せずこいふし、酬るすこいふないであらう。いゝわ、かまわなわ。世になんか認められなくたつて。存在なんか確立しなくたつて。之れだけしてゐれば棄てられもしないでせうよ。でもだつて、之れで立派に濟んでゐるんじやないの。……さて、熱意もこゝ迄失せて仕舞へば、ゆつたりしたものである。

ゆつたりしてゐるのもいゝが、居るか居ないのか分らないでも困る。しなければならぬだけのこみは誰れでもする。それ以上が、その人としての存在である。世からの期待でもある。すなはち、熱意のない人は、世が何を特に期待出来ない人である。卵を生まない鶏に何を期待しようか。仕事を生まない人に何を期待しようか。

しかも、すれば出来る人、させられれば出来る人で、少しも自らしらない人があるのは惜しいこみではないか。傍で見えてゐる歯がゆいこみはこの事である。